令和３年度　小平市立小平第六小学校　学校評価報告書

学校教育目標　①元気でじょうぶな子　②よく考えてやりぬく子＜重点目標＞　③仲よくできる子　④進んで働く子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　できる喜び、わかる楽しさを味わい、みんなの笑顔が輝く学校
【目指す児童・生徒像】　自分の思いや願いをもち、表現できる子ども
【目指す教員像】　明るく愛情にあふれ、学び続ける教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

	具体的方策	第1回評価 取組指標	第1回評価 成果指標	成果・課題・対策	第2回評価 取組指標	第2回評価 成果指標	学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
学力向上	算数習熟度委員会で東京ベーシックドリルの診断シートを2回実施し、学力の実態を把握する。それを踏まえ算数の授業(既習事項の復習)、算数タイム、家庭学習、放課後補習等の時間を利用して取り組ませ、基礎・基本の定着に努める。	4	4	習熟度別指導担当の教員を中心に、算数タイム等、様々な取組を行う。個人差や学年差が見られるため、診断シートの結果や児童の実態及び変容を踏まえ、さらなる学力の向上・定着を図る。	4	4	・学習内容はとても工夫されているように感じる。今は、先生が一方的に話すだけの授業は無い。子どもたちが体験して学べるような工夫が多くあると思う。どの教科も、子どもたちが主体的に授業に臨んでいるように感じる。 ・オンライン授業を必要な時は行って欲しい。 ・パソコンをもう少し子供たちが活用出来るようにして欲しい。	習熟度別指導担当の教員を中心に、算数タイム等、様々な取組の成果が出ている。今後さらに児童が伸びる可能性は十分にあるので、診断シートの結果や児童の変容を踏まえ、さらなる学力の向上・定着を図る。
	児童の学習意欲を高めるために授業の導入の仕方を工夫し、共に学ぶ楽しさを実感できるように指導方法の改善に努める。家庭学習の仕方を示し、自学自習ができるような仕組みづくりを進める。	4	4	学習意欲に関しては、受動的な児童の姿が若干見られる。そこで「こころのABC活動」の研究で得た、強みの介入によって児童の意欲が高まるなどの具体的な研究成果を、日々の教育活動に生かす。家庭学習の仕方を教員間で共有し、学校として系統性をもった仕組みづくりを計画する。	4	4		学習意欲に関しては、これまでの研究成果で、強みの介入によって児童の意欲が高まること、表現力の育成が学力向上にもつながるなどの成果が得られた。今後も、こうした成果を蓄積し、共有して、日々の教育活動に生かしていく。家庭学習の仕方については、学校としてのスタンダードを模索していきたい。
体力向上	体育授業の指導の共有や業間体育の活用により、児童の多様な動きや体力の向上を図る。また、ボールや長縄、竹馬、鉄棒などの運動環境を整え、運動の日常化を図る。	3	4	体力テスト実施前に「体力向上週間」を設定した。走る・投げる・跳ぶ運動を動きのポイントを確認しながらできる取り組みを行うことで、1・4・5年生で体力合計点が前年比5ポイント以上上がった。また、短縄・長縄週間ではカードを作成したり、運動委員会から全校へ呼びかけたりすることで、友達同士の教え合いや意欲向上につながった。	3	4	・特記なし	体育授業における指導の共有という観点で、資料配布やOJTは行ったものの、まだ情報量は少ない。よって、校内端末にて体育資料共有フォルダを新規に作成し、だれでもデータを入れたり、閲覧したりできるようにすることで、全体的な情報量を、改善していきたい。
	ソトスロンや六小ギネス、ダンスロンや各種運動集会の内容を充実させ、児童に体を動かすことの心地よさを味わわせる。体操や縄跳び、ダンスなどに児童自らが取り組む仕組みをつくり、家庭での運動の習慣化を図る。	2	4	異学年で楽しみながら体を動かしたり、記録に挑戦したりする期間を設定した。また、ダンスクラブを中心として「絆の舞」を全校に伝えていく活動を行った。加えて、持久走月間の設定も、全員が外で元気に体を動かす意識を高めるとともに、運動の楽しさを知り、習慣化させるきっかけとなった。	3	4		感染防止の観点から、児童同士の教え合いを行う場を設定することが少なかった。児童自らに「教える」必要性を感じさせ、計画、実行させることで、より主体的な内容に改善していく。また、ダンスを録画して、児童PCでいつでも閲覧できるようにするなど、児童が進んで活動できる環境を設定する。
健全育成（いじめ防止）	「こころのABC活動」の視点を取り入れた授業を実施する。毎月のいじめ実態調査や年3回のふれ合い月間を通し、いじめの未然防止、早期発見・解決に努める。また道徳や特別活動の時間を活用して自尊感情や自己有用感を高める機会を設定する。	4	4	毎月のいじめ調査シートの活用、ふれあい月間での取り組みなどを通し、未然防止、早期発見・解決に努めることができた。生活指導夕会で情報伝達をすることで、全校で対応することができた。	4	4	・途中から転校して入学したにもかかわらず、開かれた学校の雰囲気に、すぐに馴染むことができた。知り合いのいない土地で、担任の先生のフォローや学校の先生方の対応で安心することができた。子供がとても楽しく通っており、先生方が暖かく見守ってくださる雰囲気が親子ともども大好きである。	いじめ防止研修等を通し、「いじめ」へのアンテナが高まり、共通認識でいじめをとらえることができるようになった。数としては増えたが、小さなうちに対応できることで解決までの時間は短くなり、その後の見守りを続けることができている。次年度は、ふれあい月間に行う授業等についての情報交換も行っていくことで、指導を充実させていきたい。
	年度当初に教職員で六小スタンダードを確認する時間を設定し共通理解を図る。また毎月の職員会議でスタンダードの確認をする時間設定する。児童には毎月の生活朝会や安全指導の内容を工夫し規範意識を高めるように努める。	4	4	六小スタンダードについて、共通認識がとれていないことがあり、途中で確認することがあった。児童への指導では、テレビ放送を生かして月目標を伝えたり、安全指導の中で、全校で指導が必要な事柄を伝えることができた。	4	4		校内で指導が必要な場合には「生活保健部だより」を教員に配付することで、各学級で共通の指導をしていくことができた。次年度は、六小スタンダードをよりわかりやすくしていくことで、共通認識がとりやすくしていく。
特色ある活動	年3回の小・中連携の日を活用し、二中校区の重点項目について共通理解を図り取り組む。また、二中校区共通プログラム「あいさつ運動」に中学校と連携して取り組み児童に「地域でのあいさつ」を意識させる。	2	4	コロナ禍の中だったので、児童・生徒の交流など、連携が難しい点もあった。そんな中ではあったが、同じ中学校区の教職員同士で、小・中学校のつながりを意識して、児童・生徒の様子や各校の取組について情報交換を行うことができた。	2	4	・コロナ禍が落ち着いた後、体験的な学習の機会を増やしていただけるとありがたい。 ・コロナ禍において、体験活動は難しい状況だが、出来うる最大の活動をして頂いていると思う。1年生は特に幼稚園からの切り替わりで学校を楽しいと思えるように、体験活動が不可欠と思う。今後とも宜しくお願いしたい。	コロナ禍の中ではあったが、タブレット端末の活用事例を紹介し合ったり、授業参観したりすることで、タブレット端末の有効性や今後の課題について協議することができた。次年度には、学力向上に重点を置き、より効果的な授業実践を行うことができるよう、教科ごとの分科会を設定していく。また、そのことによって、小・中で教科の系統性を意識した取り組みができるようにする。
	学校経営協議会と連携して、学校をより良くするために毎月の学校経営協議会で共通理解を図り、取り組む。学習支援ボランティアや地域人材を活用し、指導の充実に努める。	3	4	学校経営協議会では、情報交換に加え、学校をよりよくするため、「学力向上」「登校支援」「学校を楽しくしよう」という3つのプロジェクトを立ち上げ、どのような取り組みができるのか協議することができた。コロナ禍の中ではあるが、学習支援ボランティアや地域人材の活用にも可能な限り取り組んでいきたい。	3	4		学校経営協議会では、「学力向上」「登校支援」「学校を楽しくしよう」という3つのプロジェクトを立ち上げ、一定期間、継続して協議することができた。コロナ禍で様々な制限がある中、次年度も、どのような取り組みが可能なのか、また、学習支援ボランティアや地域人材をどのように活用していくのか、引き続き模索していきたい。
	食に関する年間計画（学年別）に沿って進め、児童が本物と出合い様々な体験を通して、食の楽しさや大切さを感じ苦手な食品や料理を少なくしようと努力したり、「食」を大切にしようとしたりする態度を育てる。	4	3	年間計画に沿って食育教育を進めることができた。テレビを通しての食育指導は、児童が関心をもって見てくれた。野菜を育てる活動も、体験を通して野菜に関心をもたせることができた。	4	3	・栄養ということだけでなく、食への興味関心を引き出す楽しい給食だと思う。 ホームページの「今日の給食」もいつも楽しく興味深く拝見している。	「食」をテーマとした授業を実施することにより、幅広く食に関心を持たせることができた。次年度も、同様に年間計画をたて、食育指導を行っていく。
	2021オリンピック・パラリンピックを機会として、外国について、交流を視野に入れた調べ学習を進める。また、自国の文化についても体験学習を多く活用し、理解を深めるように努める。	2	2	パラスポーツ交流会やアスリート交流授業を行うことで、オリンピアンの競技に対する取り組み方や、本番を意識した練習の大切さなどを深く知ることができた。また、和紙づくりや自校の棚田での米づくりをとおして、日本の人々の思いについて考えを深めることができた。	2	2		オリンピック・パラリンピック、日本文化の体験学習ともに、調べたり体験したりしたことを「友達や他の学年に伝えていく」活動が少なかった。導入の段階から、児童に相手意識をもたせ、調べる方法や内容も自分たちで計画していくことのできる手だてを設定していきたい。
業務改善	連絡事項はメールを活用し、会議時間を短縮する。学年で教材研究を行い、資料を共有する。短縮できた時間を児童と向き合う時間にあて、教育活動の充実を図る。	4	4	連絡事項を周知する際には、メールを活用することで会議時間を短縮することができている。学年主任を中心に、学年会を有効に活用することで、学年間での資料の共有も行え、教材研究の時間の短縮につながった。	4	4	・欠席や遅刻の連絡などアプリ等でできるとよい。 ・各種たよりのペーパーレス化を進めていきたい。	・欠席、遅刻の連絡をフォームで受けるシステムを作成中である。今年度中の実施を目指し、準備を進めている。電話回線の混雑状況にかかわらず、欠席、遅刻の連絡を確実に受けられるようにする。 ・PTA便り等を紙面では配布せず、ホームページへの掲載とするなどペーパーレス化を進めている。